議　事　要　点　録

|  |  |
| --- | --- |
| 日時 | 令和4年（2022年）6月29日（水）14：00から16：20 |
| 場所 | 日野市防災情報センター　災害対策本部室（オンライン） |
| 会議件名 | 令和4年度第1回日野市地域自立支援協議会 |
| 主な議題 | １．開　会  （１）波戸副市長挨拶  （2）委員委嘱  （3）委員自己紹介  （4）会長の選任及び副会長の指名  ２．議事内容  （１）令和3年度事業の進捗報告及び令和4年度の事業予定  ①地域自立支援協議会に関すること  ■相談支援部会について（資料1）  ■就労支援部会について（資料2）  ②その他障害者施策に関すること  ■日野市障害者保健福祉ひの6か年プランについて（資料3）  ■医療的ケア児支援事業について（資料4）  ■精神障害者等支援事業について（資料5）  ■障害者差別解消に向けた取り組みについて（資料6）  ■災害時の避難行動要支援者への対応について（資料7）  （２）その他（報告）  ■日野市グループホーム事業者連絡会について（資料8）  ■デジタル障害者手帳の導入について（資料9）  （３）本日の総括【会長】 |
| 参加者 | 日野市地域自立支援協議会  本村委員（会長）、浅野委員（副会長）、新家委員、小林委員、渕上委員（代理）、  鴨田委員、藤田委員（代理）、根上委員、萩原委員、粕谷委員（代理）、  大塚委員（代理）、有山委員、村木委員、坂口委員、千野委員（代理）  日野市（事務局）  波戸副市長、山下健康福祉部長、障害福祉課 |
| 配布資料 | ・次第  ・委員名簿  ・資料1～資料9 |
| 主な内容 | ※以下、事務局等からの資料の説明は割愛  ※主なご意見のみを抜粋  **１．開　会**  **２．議事内容**  **（１）令和3年度事業の進捗報告及び令和4年度の事業予定**  **①地域自立支援協議会に関すること**  ■**相談支援部会について【資料1】**  **（委員）**  ・これまでも課題の整理は行ってきたが、コロナ禍で会議がオンラインになったり、中止になったりと思うように進まなかった  ・そのため、課題は出ているが、外に示せるようにはまとまっていない  ・今年度は「地域で生活するために」としてまとめていきたい  **（委員）**  ・計画相談事業所の中には困った時にどこに相談したらいいかわからない所もある  ・計画相談事業所の集まりが必要であると感じる（スキルを上げるため）  **（委員）**  ・相談支援事業所に関してマンパワー不足などの話はこれまでも出ていた  ・事業所を増やすなどの具体的な方策を考えているのか  **（委員）**  ・相談支援部会でも、事業所及び人材が足りていないという話は出ている  ・実際に計画が作れず、セルフプランで入っている方も多々いる  ・日野市の場合、特に障害児はセルフの割合が大きいと聞いている  ・その方々が相談したいと言ってきても、相談を受けられないのが実情  ・方策は特に無く、現状は法人の努力に頼るのみとなっている  **（事務局）**  ・6か年プランの作成に合わせて、補助金の見直しを検討している  ・その中で、不足する分野に対する財政支援も踏まえた対応を考えていきたい  **（会長）**  ・財政支援は期待したい  ・障害児のセルフプランの場合、保護者が社会資源を知らないケースもあるので、セルフプランの支援も視野に入れてほしい  ■**就労支援部会について【資料2】**  **（委員）**  ・一般就労を希望する方は、市内のＢ型事業所にはあまりいない  ・当事業所で受ける相談の半分は、すぐに就職できる方ではなく、生活支援が必要な方となっている  **（副会長）**  ・6か年プランの基本目標に「地域で活躍する」という位置付けがある  ・就労支援部会でその辺りも議論してほしい  ・最近、雇用率の点から20時間以内の就労でも特例的に対象に加えるとされた  ・空いた時間でＢ型を利用するなど、柔軟な対応ができるようになると思う  ・日野市として、市内の方が市内で働ける先を確保する取組を行ってほしい  **（委員）**  ・これまで一般就労を中心に話し合っていたが、福祉就労希望が多いという現状はある  ・当事者それぞれのニーズに合わせると、市外を選択することになるのが現状  **②その他障害者施策に関すること**  **■日野市障害者保健福祉ひの6か年プランについて（資料3）**  **（委員）**  ・アンケートの内容は作成中か（内容を事前に知りたい）  ・前回のアンケートの際は難しい内容もあったので、事前に確認したい  **（事務局）**  ・アンケートの案ができたら委員の皆様に事前にご確認いただく予定  **（委員）**  ・前回アンケートの内容が難しく、質問の意図がわからず答えられない人が多かった（文字で対応することが難しい人も）  ・アンケートの内容等についての相談先はどうするのか  **（事務局）**  ・アンケートのわかりやすさ（表現など）は事前に皆さんにご意見をいただく予定  ・相談先は障害福祉課とする  **（委員）**  ・アンケート調査にある教育の分野は、6か年プランのどこに反映されるのか  **（事務局）**  ・6か年プランでは「生きる力を学ぶ」の基本目標の箇所に反映させる予定  **（委員）**  ・関係機関の中には、学校や教育委員会も含まれるという理解でよいか  **（事務局）**  ・その通り  **■医療的ケア児支援事業について（資料4）**  **（委員）**  ・医療的ケア児の方が計画相談を受けているので、みんなの診療所の見学に行った  ・府中の小児総合が18歳までであり、その後の病院がなくて困っている状況だったので、医ケア児にとっては助かっている  **（委員）**  ・医ケア児の保護者の負担が大きく、その軽減が課題となっている  **■精神障害者等支援事業について（資料5）**  **（委員）**  ・精神の方の特徴として、自分の病気を認識できないことが多い  ・根気強く本人と話をして同意してもらうことが大事  ・家に帰れない方や、入院中に住居がなくなってしまう方もいる  ・どのように地域で支えていくのかを考える必要がある  **（会長）**  ・「にも包括」という言葉は使わなくなったのか  **（事務局）**  ・考え方や6か年プラン等の中には残っている  **（委員）**  ・入院中の方の計画相談について、病院側から相談を受ける機会があった  ・行政でバックアップできる部分（仕組みづくり）はお願いしたい  **（委員）**  ・今の話を踏まえ、関係者間のネットワークづくりが大切であると感じた  **■障害者差別解消に向けた取り組みについて（資料6）**  **（委員）**  ・相談件数があまり多くないので、窓口の紹介が改めて必要  ・好事例も紹介することで、市民の方々にも合理的配慮を認識してもらえる  ・既存の事業所には難しい部分があるかもしれないが、せめて新しくできる事業所は余分な負担も増えないので、積極的にバリアフリー化を進めてもらえればと思う  ・福祉教育ハートフルプロジェクトについては、学校の中で教科書を広げるとかではなく、このような取組が浸透してもらえればと考える  ・情報保障のガイドラインは、「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」の動きなども参考にしながら進めていきたい  **（委員）**  ・「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」のポイントについて  ・例えば、テレビで聴こえない方だけでなく、見えない方にも音声で案内するＩＣＴの活用なども考えられる  ・現状でも政見放送などに字幕がついていない時がある  ・投票所でも手話通訳だけでなく、視覚的に見てわかるような工夫も必要  **（委員）**  ・障害者を取り巻く環境は時代によって変わってきているが、私たち自身が障害のある方たちのためにうまく使えるのかも大事な点  **■災害時の避難行動要支援者への対応について（資料7）**  **（会長）**  ・民生委員との連携は是非進めてほしい  **（２）その他（報告）**  **■日野市グループホーム事業者連絡会について（資料8）**  **（委員）**  ・グループホームを選ぶ時に何を基準に選んだらいいかわからない  ・そのため、「連絡会に参加している事業所」のように、選ぶ基準ができるため、このような連絡会を立ち上げることはありがたい  ・また、資産運用の一環で不動産関係者などが立ち上げることもあるようなので、トラブルや虐待の話も聞く  ・精神保健福祉士などが配置されたグループホームでも利用者の定着は難しいと聞いており、知識の少ない事業所が運営することは更に難しいのではないかと感じている  ・市内にはどのくらいグループホームの数があるのか、運営の状況はどうなのかを教えてほしい  **（会長）**  ・市内には70カ所程度のグループホームがある  ・その辺の状況も次回の協議会で報告してほしい  **■デジタル障害者手帳の導入について（資料9）**  ・特になし  **（事務局）**  ・次回の開催は、年明け2月頃を予定している  以上 |
| 作成者 | 日野市障害福祉課 |